



子どもたちに入れない教室に学びの場を

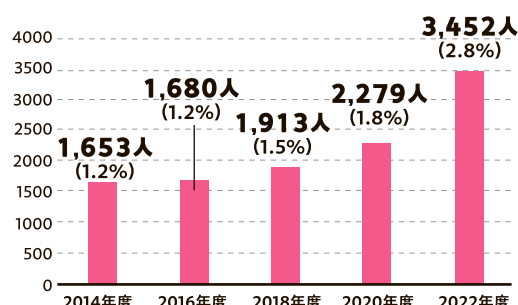


全国の不登校の児童生徒が急増し、課題となっています。長崎県も例外ではなく、2022年度の県内公立学校の不登校児童生徒数は3,452人で過去最多となりました。

長崎県では本年度から、全ての子どもたちに多様な学びの場や居場所を確保する「学校内外における児童生徒の学びの場創出事業」を始めました。子どもたちのニーズに応じた学習ができるよう、右の取り組みなどを推進することで、社会的自立に向けた「確かな一歩」を支援します。

長崎県の不登校児童生徒数の推移

(児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査)



()内の数字は全児童生徒数に対する割合

子どもたちの悩みに寄り添う相談窓口も！
～いつでも、どんな相談でも大丈夫～

24時間子どもSOSダイヤル

24時間対応 **0120-0-78310**

メール相談 **soudan@news.ed.jp**

スクールネット
@伝えんば長崎

中・高校生対象



WEBアクセス



LINE登録

https://www.tsunasou.net/notice_report_form/nagasaki/index

SNSで相談
できるよ！

取り組み1

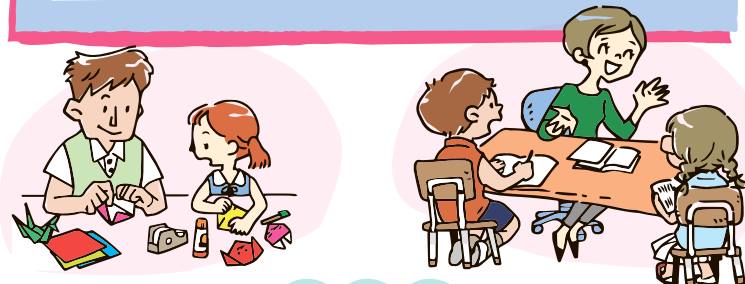
「校内教育支援センター (SSR)」の設置を促進

校内教育支援センターとは、スペシャルサポートルーム (SSR) とも呼ばれ、不登校児童生徒や自分のクラスに入れない、あるいは少し気持ちを落ち着かせてリラックスしたい児童生徒が利用できる、校内の空き教室などを活用した学びの場です。長崎県は「SSR」を設置する市町に対し、支援員の人件費の一部を補助します。

「SSR」では、どんな活動をするの？

子どもたちの状況やニーズに応じた活動を行います。

- ★ 読書や折り紙などの興味・関心に応じた活動
- ★ 自主学習やオンラインによる授業参加
- ★ カウンセリングやソーシャルスキルトレーニングなど



取り組み2

校外機関との連携強化

長崎県は、学校とフリースクールや子ども食堂、児童館、公民館などの連携強化を推進しています。それらの関係機関などと連携した支援体制を構築することにより、不登校支援のさらなる充実を目指しています。



重岡先生ってどんな先生？

いわゆる「保健室の先生」として20年以上にわたって活躍する養護教諭。担任とは違う立場から、生徒たちの心と体の健康を見守っています。

先生のリフレッシュ方法

茶道のお稽古。このときは「生徒」の立場として、おいしいお茶とお菓みに癒やされる時間を楽しんでいます。



Teacher's File

長崎の学校で生き生きと働く先生たちにスポットを当てます

今回紹介するのは
長崎工業高校定時制の

重岡奈都子先生

生徒が安心できる場所に

教員を目指したきっかけは

中学時代に出会った養護教諭への憧れから。部活の顧問でもあり、一緒にいると元気をもらえる明るい雰囲気がとても好きでした。今でもお手本にしています。看護学校で看護を学びましたが、生徒の病気予防や健康管理・指導に携われるところに魅力を感じ、養護教諭を目指しました。

この仕事に就いてよかったことは

生徒の成長をそばで見られたときです。自分の力で変わろうとしている姿に心を揺さぶられます。養護教諭はテストで生徒を評価することがなく、素に近い姿で接してくれることもうれしいです。担任の先生方と協力し、生徒たちが安心して学校生活を過ごせるよう、保健室から支えていきたいと思っています。

仕事に生かすために挑戦していること

健康診断の結果をまとめる仕事は、生徒の成長を記録に残すカルテを作るようなものです。生徒数が多くなると、その分時間がかかってしまいます。見やすくかつ効率よく作業が進められるよう、仕事の合間にエクセルの使い方を勉強中。ストレスケアの勉強をしたり、発達障害などの勉強会にも参加しています。